



拡大写本のこれから

筑波大学附属視覚特別支援学校 宇野 和博

日ごろより、弱視児の学習支援にご尽力いただいていることに深く敬意を表します。教科書バリアフリー法が成立し、教科書出版社から標準的な規格の拡大教科書が出版されるようになりましたので、「以前よりも業務が減った。」という声も聞かれるようになりました。これは嬉しい感想とも聞こえますが、皆様のグループでは、いかがでしょうか。中にはまだ十分に行き届いていない副教材や参考書、問題集、高校の拡大教科書などに取り組んだり、絵本や一般図書に取り掛かろうと考えておられるグループもあるかも知れません。ひょっとすると、もう拡大写本ボランティアの活動は必要なくなったのではとお考えの方もいらっしゃるかも知れません。そこで、拡大写本の今後について私なりに考えたことを書かせていただきます。

まず、朗報です。現在は、教科書以外の図書の拡大写本に取り組もうとすると、図書館に關与するボランティアか、文化庁長官の指定を受けたグループ、プライベートサービス、または学校からの依頼でなければ著作権の問題が足かせとなります。事実上「できない」という状態が続いています。しかし、この問題が近い将来、解決される展望が見えてきました。国連の専門機関が採択したマラケシュ条約を日本が批准する時に著作権法も改正される可能性があります。そうなった暁には、著作権問題に悩まされることなく、ある弱視児のために製作した拡大写本を別の弱視児に提供することができるようになります。せっかく作った拡大本ですから、その本を必要としているすべての弱視児に提供できるようになれば、みんなハッピーです。そんなことってできるのでしょうか。もうお分かりだと思いますが、インターネットがそれを可能にします。現に視覚障害者のための電子図書館「サピエ図書館」には、18万タイトルの点訳データや7万タイトルの音訳データがアップされており、全国で1万5千人以上の視覚障害者が利用しています。同様のサーバーは国立国会図書館も立ち上げています。一つのボランティアグループが作成したデータがネットを通して、それを必要とする全国の視覚障害児（者）に届くというのはまさに理想的な共助だと思います。

また、近年のスマホやタブレット端末の普及により、紙媒体の行く末を案じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これは紙を好む人にとっては紙で、画面がいいという人には画面上で情報を提供していけばよいというだけのことです。つまり「選択の自由」を保障することが大切といえます。それでは、両方のニーズに役立つ活動とは何でしょうか。私は将来的にテキストファイルの作成こそがすべての基礎になっていくと思います。絵や図の問題は別途解決しなければなりません。テキストファイルがあれば、弱視者自身が画面上で文字の大きさや字体、色を変更することもできます。また、紙媒体を作成するにしてもそのデータを基にニーズに応じた編集をしていけばよいわけです。これまで点訳、音訳、拡大写本と別々にボランティア活動が進められてきましたが、これらの活動のプロセスも変わっていくことになるかも知れません。最後になりましたが、皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

残暑のいまだ厳しい九月の中旬に文科省教科書課を、新代表世話人を筆頭に計四人で訪問しました。教科書課は、今年度の人事異動により拡大教科書推進及び教科書デジタルデータ関連を統括する課長補佐と庶務係長それに教科用特定図書電磁記録係長の主要な三人が揃って新しく就任されましたので、双方にとって初顔合わせとなりました。目的を特定の用件についての陳情ではなく「挨拶と情報交換と懇談」としました。教科書課は三人が揃って対応してくださり、約一時間の真剣な中にも和やかな懇談ができました。初対面ながらも、我々拡大協に対する信頼は継承されていて、前任のご担当からの引継ぎがきちんと行われていたことを感じ取ることができました。これからの情報連携のための基盤は作れたのではないかと思います。

拡大協からは協議会の概要をいくつか資料を用意して説明し、更に高校教科書の拡大教材製作に関する費用の考察を付与しました。

今後の取り組みについての構想などの話を伺った中で、視覚障害のある児童生徒がオーダーメイドによって個々に適応した拡大教科書の利用が可能になる「ポータルサイトの構想」が来年度概算要求の中に盛り込まれていることが特に注目されました。関連して課長補佐からボランティア団体が一度製作した拡大教材のデータをこうしたポータルサイトに提供する可能性や考え方について打診がありました。

世田谷区立笹原小学校「目の教室」見学に行きました。

四街道拡大写本の会 戸田由紀子

10月18日(火)、世田谷区立笹原小学校に設置されている「目の教室(弱視通級指導学級)」を訪問しました。1976年(昭和51年)設立で今年40周年になります。1年生から6年生まで15名の子どもたちが在籍しており、設置している小学校は全国的にもまだ少ないため府中、武蔵野、狛江、目黒から通学しているとのこと。

担任の細田先生と川嶋先生に実際の授業風景を見せていただきながらお話を伺いました。「肉眼で見えることは確かなもの。子どもの見える力を最大限に発揮させるために、何をどうすればいいのか、どうすれば見えるのか毎日が試行錯誤」と何度も話され、その子に合った視



覚補助具をあれこれ試しながらの授業からは、子どもに寄り添っていく姿勢の大切さを感じました。また、ビデオで、学校全体で弱視について子どもたちの理解を深めるため、子どもたちが取り組んでいる活動の様子もを見せていただきました。

拡大教材について、「その子の読みたいものを拡大にいうところまでいっていない」との言葉が印象的で、一人ひとりの子どもにあった学習環境の必要性を強く感じました。



富士ゼロックス「教科用特定図書等の普及促進に関する講習会」に参加して

2016年8月23日（火）13:00～16:30 横浜みなとみらいセンタービル4F

豊島区立中央図書館ひかり文庫 山本裕美子

実際の授業風景を見せていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。内容		講師	
①	拡大教科書等の普及促進について	松本由布子	文部科学省初等中等教育局教科書課
②	高等学校等への教科書デジタルデータの提供について	浜田 真弓	富士ゼロックス（株）
③	盲学校高等部に ICT を活用した授業における教科書デジタルデータの活用事例紹介	中野 泰志	慶應義塾大学教授
④	盲学校高等部における ICT と教科書デジタルデータの活用事例紹介—UD ブラウザ研究の取組から	吾妻奈津希 中西 大輔	横浜市立盲特別支援学校高等部普通科教諭

参加者はボランティア団体のほか、教育委員会の教科用特定図書等の事務担当者、小・中・高等学校、特別支援学校の障害のある児童生徒等を担当されている方々でした。

2016年4月から施行された「障害者差別解消法」を踏まえた取り組み、高等学校へのデジタルデータ提供とその活用方法の事例などの紹介を通して、デジタル教科書（iPad）の実践例や生徒・教員の反応や評価を知ることができました。拡大教科書の普及促進の現状再認識と学びの手段としての「デジタル教科書」の将来性が気になるのですが、デジタルデータの提供でオーダーメイドの拡大教科書をボランティア団体が作成していることの周知はさらに徹底すべきではないでしょうか。

➤ 横浜市立盲特別支援学校 図書館見学会

2016年8月23日（火）9:30～

ゼロックス講習会の前に、見学できる機会をいただき、JR 横浜線大口駅から、黄色の誘導ブロックに沿って徒歩8分、校舎にたどり着きました。「読める」から「読みやすい」図書館資料作りは、多くのボランティアによって支えられていて、その蔵書に圧倒されました。13,000冊の墨字本、拡大図書は1,100冊。手で読む絵本や DAISY 図書、マルチメディア DAISY 図書等、様々なジャンルの図書に触れることができました。



現在のグループ数 54 グループ (2016年10月末現在)

退会 拡大写本サークル「つばさ」(2016年7月末)

監査補欠承認される

54グループ中46グループの賛成を持って承認されました。

募集中!

全国拡大教材製作協議会では現在ホームページをリニューアルしています。皆様のご意見をできるだけ取り入れ、探しやすくわかりやすいものにしようと努力しています。リニューアルにあたって、トップページの写真やロゴも新しいものにできたらと思います。協議会にふさわしい画像などありましたら、是非提供をお願いします。

また、今後更新作業を、現在ボランティアで引き受けてくださっている土居昭昌さんに代わって担当していただける方を募集しています。更新作業は毎月の会報、世話人会議事録、毎年の代表者会議決定事項、実績報告、随時勉強会や講演会の案内と記録などです。

- (1) 拡大教材製作協議会のHPはHTML及びCSSを使った手作りです。
- (2) 特定のツールは使っていません。ホームページビルダを部分的に編集用に使っているが必須ではありません。
- (3) PHPを一部使っています

拡大 now & 編集後記

-  富士ゼロックス講習会 仙台会場 11月11日(金) 全国拡大協より1名参加
-  11月13日(日)に予定している勉強会に先立ち、製本に関するアンケートをお願いしました。多くのグループから回答をいただきましたが、製本の方法はグループによってかなり違いがあることがわかりました。どんな製本がいいのか皆さんで改めて考えたいと思います。まだ余裕がありますので申し込んでください。
-  12月5日(月) 東京都弱視教育研究会12月例会を訪問することが決まりました。
-  12月9日(金) 筑波大学付属視覚特別支援学校 高等部「総合的な学習」で講演 佐藤邦隆氏
-  来年のマラケシュ条約批准で、拡大をとりまく環境が大きく変わる予感がしています。ITを活用して利用者が自分に合った教科書や図書を採択できる日が来るかもしれません。
-  笹原小を見学して、「見えやすい環境を整える」ためにいろいろな道具が開発されていることに驚きました。弱視レンズ、拡大読書器、文房具(コンパスや鉛筆、定規などすべて) タブレット、運動ルームなどなど。また、「学校生活で配慮すること」として、本当に細やかな配慮がされていて、すべて先生、学校の熱意のたまものと感じました。ここに通うお子さんは幸せだなんて思いました。どこにいても同じような配慮が受けられるといいですね。
-  今後の世話人会予定
11月9日、12月21日 東京都障害者福祉会館 13:30~